

「自殺対策の必要性と横須賀市自殺対策連絡協議会設立の趣旨」について

我が国の自殺による死亡数は、平成 10 年以降 3 万人前後と高いレベルで横ばいの状態であります。原因として、中年男性の自殺死亡数の多さや、加速化する高齢化の進行とともにますます懸念される高齢者の自殺、また、テレビ等で報道されました思春期児童の自殺に関しては、いじめ問題からの自殺や校長先生の自殺など痛ましい自殺が続き、暗い影を落としたところです。

このように、自殺は全ての人にとって身近に存在しえる問題です。

また、自殺には、自殺した当事者ばかりの問題ではなく、自殺を試みたものの未遂に終わったものが自殺者数の 10 倍から 18 倍は、また、当事者の自殺によって、悲嘆にくれているその身近な親族等がその背後に平均 5 人はいるといった資料もあり、このことを考えますと、横須賀市においては、ここ数年、毎年百人前後の痛ましい自殺者がおられ、自殺者数百人から換算いたしますと、自殺未遂者、自死遺族等を合わせて考えますと、年間概算で約 2 千人以上の方が、この自殺問題により暗い影を落としているといっても過言ではありません。

人が自殺に至るまでには、さまざまな背景と複雑な心理的過程があり、自殺の真の理由を知ることは難しいと思います。自殺した者の心理を分析していくと、自殺を自ら選んだのではなく、追い詰められ、どこにも行き場がなくなり、唯一の解決策が自殺しかないという状態に追い込まれているという報告もございます。この追い込まれていくという心理の背景には、勤めていた会社を解雇されたり、職場の人間関係で悩みを抱えたり、経営上の資金繰りで途方にくれたりといった生活状況の変化によるストレスが重くのしかかり、そのストレスが蓄積され、心に溜まったストレスが、精神的には憂うつ感や関心低下、身体的にも食欲不振や不眠症状などを起こしてしまうといわれています。このようなストレスを溜めていく中でうつ病を発症し、正常な判断ができなくなることも多いようです。

このような追い込まれての死に至る前に周囲の人に相談ができれば、また、追い込まれても、「もう死んでしまいたい」という本人のサインに周囲の人が気づくことができれば、自殺に至ることを回避することができると思います。また、「死にたい」という人の、心が追い込まれている根本的な原因を知り、